

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／梅津 正美

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

・本学が策定しているディプロマ・ポリシーをふまえた到達目標を明確に設定し、①目標を達成するための作業課題を柱に授業計画と内容を構成する。
②授業方法は、講義法に加え、作業・発表・討論などのアクティブラーニングの手法を用いる。③明確な評価基準を定め、試験・レポート・作業課題への取り組み・出席状況等を総合的に考慮して適切な成績評価を実施する。

2. 点検・評価

・平成25年度前期に担当した①学部授業「地理歴史科教育論」、②大学院「社会科教育学研究」において、いずれもシラバスに到達目標を明示し、それをふまえた作業課題を設定し実践した。①については、高校地理歴史科・公民科の教科課程編成を、②については歴史授業論の類型・特質・限界を整理し発表することを課題とし、それらの成果を冊子にまとめ、学生にフィードバックした。
・平成25年度後期に担当した学部授業「社会科・地理歴史科教材論」において、学修課題である「歴史テスト問題構成案の作成」について学生の成果を冊子にまとめフィードバックした。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

・文部科学省特別経費研究「教員養成モデルコアカリキュラムの発展的研究」に取り組み、カリキュラムマップとガイドラインを完成させ、実践に活用する。
・本学のディプロマ・ポリシーをふまえた到達目標と作業課題を明確にした授業を構想・実践するとともに、それと結んだ適正な成績評価を実施する。
・教員採用試験に応じた授業カンファレンス小論文指導を計画的に実施する。
・ゼミ生の修士論文・博士論文(副指導教員として)の指導に関して、学生の関心や研究目的をふまえながら、質の高い論文を完成できるようきめ細かい指導・支援を行う。

2. 点検・評価

・「教員養成モデルコアカリキュラムの発展的研究」では、カリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会の統括責任者を務め、平成25年度の課題である「カリキュラム・ガイドブック」(仮称)のコンセプトと内容を取りまとめ、その成果を報告書にまとめた。成果の報告は、第8回東アジア教師教育国際シンポジウム(平成25年9月26日、中国長春市・東北師範大学)、第6回韓日教育大学長フォーラム(平成25年10月18日、韓国ソウル市・ソウル教育大学)、教員養成モデルカリキュラムの発展的研究シンポジウム(平成26年2月9日、大阪市)で行った。
・平成25年度前期に担当した①学部授業「地理歴史科教育論」、②大学院「社会科教育学研究」において、いずれもシラバスに到達目標を明示し、それをふまえた作業課題を設定し実践した。①については、高校地理歴史科・公民科の教科課程編成を、②については歴史授業論の類型・特質・限界を整理し発表することを課題とし、それらの成果を冊子にまとめ、学生にフィードバックした。平成25年度後期に担当した学部授業「社会科・地理歴史科教材論」において、学修課題である「歴史テスト問題構成案の作成」について学生の成果を冊子にまとめフィードバックした。
・学士ゼミ生1名、修士ゼミ生4名、博士指導学生(副指導教員)1名の「課題研究」を担当し、研究論文作成のための指導を行った。修士ゼミ生1名が修士論文審査に合格し、修了した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ・連合大学院基準に準拠した著書・論文を著す。
- ・全国学会で研究発表を行う。
- ・文部科学省特別経費研究「教員養成モデルコアカリキュラムの発展的研究」に取り組み、成果を上げる。
- ・連合大学院共同研究プロジェクトN(2012年度～2014年度)をチームリーダーとして推進し、本年度の成果を社会に公表し評価を受ける。
- ・科研費受領研究を継続して推進し、その成果を学術論文に著し発表する。

2. 点検・評価

- ・国際誌・国内学会誌に、以下の学術論文を発表した。
- ①「生徒の社会認識発達の変容に関する調査的研究－中学校歴史学習の場合－」(共著)韓国歴史教育学会編『歴史教育論集』第52集、2014年2月、pp.163-194(審査有:連合大学院基準A論文)
- ②「社会科授業研究の有効性を問う－社会科授業研究の教育実践学的方法論の探求－」(単著)社会系教科教育学会編『社会系教科教育学研究』第25号、2013年12月、pp.91-94(学会依頼論文)
- ・国際学会・全国学会等で、以下の発表を行った。
- ①「教員養成カリキュラムにおける授業の構造化と学習支援ツールの設計」(単独)第8回東アジア教師教育国際シンポジウム(平成25年9月26日、中国長春市・東北師範大学)
- ②「教員養成教育における社会科授業力形成－社会科教育関連科目の構造化と協働による実践－」(単独)第62回全国社会科教育学会全国研究大会(平成25年11月10日、山口大学教育学部)
- ・連合大学院共同研究プロジェクトN「社会科授業研究における教育実践学的方法論の構築」(2012年度～2014年度)をチームリーダーとして推進し、本年度の成果を、平成25年度社会系教科教育学会全国研究大会(平成26年2月9日、大阪教育大学)にて発表した。発表題目「社会科授業研究における教育実践学的方法論の探求」(共同:発表内容の構成に参画。学会当日は大阪市でのモデルカリキュラムシンポに参加したため、直接の発表はせず。)
- ・「教員養成モデルコアカリキュラムの発展的研究」では、カリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会の統括責任者を務め、平成25年度の課題である「カリキュラム・ガイドブック」(仮称)のコンセプトと内容を取りまとめた。その成果を冊子にまとめるとともに、教員養成モデルカリキュラムの発展的研究シンポジウム(平成26年2月9日、大阪市)で報告した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ・副学長(評価・外部資金担当)としての任務を遂行する。特に、「大学機関別認証評価」を円滑に受審し、「認証」の評価を得るように務める。
- ・予算・財務管理委員会委員等与えられた委員の任務を遂行する。
- ・企画戦略室等会議を通して、大学改革に関する提言を積極的に行う。

2. 点検・評価

- ・副学長(評価・外部資金担当)として、法人評価に係る平成24年度業務実績報告書及び大学機関別認証評価に係る自己評価書の作成を統括した。大学機関別認証評価では、大学評価・学位授与機構より「大学評価基準に適合」との評価を得た。
- ・予算・財務管理委員会委員副委員長、教職実践演習実行委員会委員及び運営チーム委員の任務を遂行した。
- ・教育・研究評価部会会長として、平成25年度審議結果を報告書としてまとめ、学長に答申した(平成26年3月27日)。
- ・「教員養成モデルコアカリキュラムの発展的研究」では、カリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会の統括責任者の任務を遂行した。
- ・企画戦略室室員として、大学出版書『鳴門教育大学教員養成教育改革の軌跡』(協同出版刊)の編集及び執筆にあたった。
- ・平成25年度FD全体会で講演した(平成25年7月31日)。
- ・大学改革構想検討委員会委員として、具体的な改革構想を提言した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

・附属小・中学校の実習及び研究会に積極的に参加し、その推進を支援する。
・教育支援アドバイザー、センターの教員研修講座、県及び郡市の授業研究会等における助言・講演などを通じて、地域の教育関係機関との連携を深める。

2. 点検・評価

・主免許教育実習に係る附属小学校授業研究会で指導助言者を務めた(平成25年9月18日)。
・教員支援アドバイザーとして、年度中5回の講演を行った。その他に、徳島県総合教育センターの夏期教員研修として、小学校・中学校・高等学校の各研修講座を担当した。
・徳島県中学校社会科教育研究大会(阿南大会で指導助言者を務めた(平成25年10月25日、阿南第一中学校)。
・兵庫県高等学校学力向上指定研究校平成25年度成果発表会で指導助言者を務めた(平成25年11月12日、淡路三原高校)。
・広島県高等学校地理歴史科・公民科部会平成25年度研究大会で講演を行った(平成25年12月6日、広島女学院大学)。
・宮城教育大学平成25年度FD研修会で講演を行った(平成25年12月18日、宮城教育大学)。
・徳島県教育委員会あわ文化体系化検討委員会委員、兵庫県教育委員会副読本「世界の中の日本」(仮称)開発委員会副委員長、文部科学省研究開発指定校(神戸大学附属中等教育学校)運営指導委員会委員を務めた。
・第5回中日教師教育学術研究集会実行委員長として、プロシーディングの編集を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)